

トイレで未来を創るプロジェクト

今回は設置前の現状をお伝えするため、現地訪問したLIXIL社員のレポートをお届けします。
子どもたちが安心して学べる環境を届けるため、プロジェクトを進めてまいります。

1. 片道12時間。泥道の先にあった「使われないトイレ」

■ 訪問先：インドネシア（西カリマンタン州シンタン県）



羽田から10時間のシンタン中心部から、さらに陸路+ボートで約2時間経済的な理由で生涯一度も村から出られない子どもも多数。

■ 学校の衛生環境の現状：深刻なトイレ不足



それぞれの学校ではトイレは設置されているものの、その多くが故障や水不足で使用ができない状況です。

■ 生徒のトイレに関するイメージや行動

生徒たちのトイレのイメージは汚い、虫（ゴキブリ、蚊）がいる、臭い、など。男子生徒は近くの川で、女子生徒は自宅や近くの森まで赴き用を足している状況です。

2. 本プロジェクトの価値

■ SATO設置



水の使用量が少ないため水不足の現地に有効です。また、虫が湧きにくい構造で、生徒のトイレに対するネガティブなイメージを改善できると考えられます。

■ 子どもたちの笑顔につながる



皆様の支援は衛生環境を整えるだけでなく、子どもたちの笑顔と未来を創ります。

3. その他活動や現地の情報

石けんを使った手洗い啓発セッション

インドネシアの対象校に実施。子どもたちが自主的な手洗いを習慣化することで、疾病感染リスクの低減や学校の衛生環境の向上を目指しています。バングラデシュでも来月から衛生研修を実施する予定です。



バングラデシュの伝統料理：ピタリ

バングラデシュの事業地のあるジャマルプール県で、世代を超えて親しまれてきた伝統的な肉料理です。日本の「肉じゃが」や「カレーライス」が家庭のぬくもりやつながりを感じさせる存在に似ています。

